

2021年5月12日
株式会社日立製作所

**「執行役会長および執行役社長の異動」に関する
機関投資家・アナリスト、報道機関向け説明会における
東原会長、小島次期社長の冒頭挨拶**

1. 東原執行役会長兼執行役社長兼 CEO

本日は急なご案内にも関わらず、記者会見にお集まりいただき感謝申し上げます。本来であれば、オンラインではなく、皆様の前で直接ご説明申し上げるべきところですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言下ということもあり、このようにオンライン説明会になったことをご容赦頂ければと思います。

さて、すでにニュースリリースにてご案内の通り、当社の経営体制の変更について、本日開催された取締役会で決議されましたので、その内容についてご報告します。

まず、中西前取締役会長については、療養に専念するという本人の意思を尊重し、本日5月12日付で取締役および執行役を退任し、相談役に就任することを取締役会で決議いたしました。

中西さんが病気を理由に任期半ばで退任せざるを得なくなったことは大変残念であり、一日も早い回復をお祈りしています。

中西さんの後任には本日5月12日付で私が会長兼社長兼CEOに就任することが取締役会で決議されました。

さらに6月23日付で、現在副社長の小島さんが社長兼COOに昇格し、私は会長兼CEOとして引き続き経営トップの任を務めることも取締役会で決まりました。

先日の中期経営計画の進捗説明会でもお話した通り、今後の日立の成長のドライバーはLumadaを中心とするデジタル技術を活用した社会イノベーション事業です。

小島さんは1982年に情報分野の研究者として入社し、世界トップクラスのデジタル技術の研究開発に従事してきました。そして、2016年にはサービス&プラットフォームビジネスユニットCEOとして米国の日立ヴァンタラ社のメンバーとともにLumadaをスタートさせ、現在のLumada事業の基盤を築きました。また、研究所時代の4年間の米国駐在に加え、日立ヴァンタラ社のグローバルな人財と一緒にLumadaの立ち上げ、開発を担うなどグローバルなキャリアも積んでおり、今後、Lumadaのグローバル展開を加速するのに最適な経歴を有しています。

近年ではライフセクターのトップとして、日立ハイテクの 100%子会社化、画像診断関連事業の譲渡、海外白物家電事業の合弁会社設立、日立 Astemo の設立など幅広い分野で構造改革を推進し、ライフセクターを強化してきました。

こうしたデジタル技術、Lumada 事業に対する深い造詣と、構造改革を断行する実行力は、デジタルで成長していく日立の社長として最適だと取締役会が判断しました。

Lumada のさらなるグローバル展開を加速するこのタイミングで、社長に最適の人財だと私も確信しております。

なお、当社では、次の経営リーダーの選抜や育成計画、いわゆる「サクセッションプラン」について、指名委員会で常々議論しており、本日発表の新体制も、これまでの指名委員会での議論を踏まえ、取締役会にてスムーズに決まったことをご報告申し上げます。

今後は、小島次期社長と力を合わせて、社会イノベーション事業のグローバルリーダーは日立だと言っていただけるよう頑張ってみます。変わらぬご支援を、よろしくお願い申し上げます。

2. 小島次期執行役社長兼 COO(現・執行役副社長)

最初に、中西さんの退任は大変残念なことであり一日も早い回復をお祈りしております。

さて、このたび、取締役会の決議を受けて、6月23日付で社長兼 COO を拝命することになりました小島と申します。

突然の指名に大変驚いているというのが率直な感想ですが、東原会長とともに日立を社会イノベーション事業のグローバルリーダーにすべく全力を注いでまいります。何卒よろしくお願い致します。

東原会長から紹介がありましたが、私は 1982 年に日立に入社し、中央研究所に配属されました。私が入社以来一貫して取り組んできたテーマが「データから価値をつくること」であります。中央研究所での最初の研究は「データベースの高速化」で、神奈川工場でのモノづくり、製品化を含めたところからキャリアを開始しました。その後 4 年間の米国駐在など色々な経験を経て、2000 年以降は、データを高速で保管、活用するための「データストレージシステム」の開発に従事しました。これは現在、日立ヴァンタラ社で主力の製品になっています。そして、2016 年にはサービス&プラットフォームビジネスユニットの CEO として「データから新たな価値をつくる」基盤として Lumada を立ち上げました。

2019 年からはライフセクター長としても、自動車部品、家電、医療関連事業の収益性改善のために指揮をとってきました。構造改革と並行して、データから新たな価値を創る Lumada 事業モデルの確立に力を注いできました。

社長兼 COO に就任しても、データから新しい価値をつくり、お客様や社会にお届けすることを、一貫して追求してまいります。

こうしたデータを価値に変える事業を行ううえで、日立の強みは IT・OT(Operational Technology)・プロダクトを併せ持つことです。様々なプロダクトを提供するからこそ、それらが実際に使われる現場のデータやオペレーショナルテクノロジーを理解することができ、これらを理解したうえで IT を活用し、お客さまや社会に価値を提供していく一連の流れをソリューションとして提供できることが日立の強みです。

リーマンショック以降、日立は IT・OT・プロダクトを持つ強みを生かした社会イノベーション事業に特化した企業になるべく変革を進めてきました。特に 2021 中期経営計画では、大きな事業ポートフォリオの入れ替えを進め、ようやくグローバルに社会イノベーション事業を展開するために必要なアセットが整ってきたと感じています。

日立は、「環境、レジリエンス、安心・安全」の領域で価値をつくっていくことを宣言しました。こういった領域で色々な社会課題の解決に果敢に挑戦することで、社会イノベーション事業のグローバルリーダーと認知されるよう、全力を注いでまいります。

最後に日立をどのような会社にするかについて、お話します。私が入社以来取り組んできたデータやデジタルといった技術が、世界を大きく、そして急速に変える時代になりました。

こうした時代にあって、日立の使命は、データとテクノロジーをフルに使って社会インフラをどんどん革新して人々の幸せな生活を支えることと考えております。

そして、この使命に共感・共鳴してくれる多様な人財に日立に集まってもらい、日立のアセットをフルに使ってやりたいこと、夢をかなえてもらう、そのように、今まで以上にオープンでダイナミックな会社にしたいと思っております。

仕事の上での私の信条は「有言実行」です。東原会長とともに、まさに「有言実行」で、こうした会社をつくっていききたい、という決意です。皆さまの変わらぬご指導、ご支援をよろしくお願い致します。

以上